

## エッセイ 楽しい“虫音楽”の世界（その8 県歌と市歌にも昆虫）

昆虫芸術研究家

柏田 雄三（かしわだ ゆうぞう）

昆虫が出てくる国歌がないものかと書籍やCDで調べたが、百数十か国の中には見つからなかった。公式には2番までしか歌われないギリシャ国歌は何と158番まであるそうだ。ギリシャは「動物誌」のアリストテレスの国なので、友人の手を借りて全曲の訳詞を調べたがそこにも期待した昆虫は出てこない。

たくさんの県歌と市歌を曲の成り立ちとともに記した「全国 都道府県の歌・市の歌」（中山裕一郎監修 東京堂出版）の歌詞を調べると昆虫が歌われている曲がある。さらにいくつもの市のホームページなどで昆虫が出てくる市歌を探した。それらは昆虫が産業に役立つことを歌った曲と昆虫を豊かな自然の代表とする曲とに大別できるようである。

昆虫が役立つことを歌った曲には異彩を放つ長野県歌「信濃の国」がある。長野県人が誇らしげに歌う曲で、県内各地域の地理、名所、偉人等が巻物のように現れるなかで「蚕飼いの業の打ちひらけ」と蚕糸業の重要性が歌われている。生糸が一時期日本の輸出総額の6割以上を占めるほどの一大産業だったのだ。作曲者の北村季晴は「桃太郎」をもとにした「おとぎ歌劇「ドンブラコ」」を作った人である。

生糸・絹の市歌には栃木県小山市の「市歌『小山わがまち』」や長野県岡谷市の「岡谷市歌」がある。他の昆

虫では梨の花で羽音を立てるミツバチと思しき虫の働きが顔を出す佐賀県伊万里市の「伊万里讃歌」があり、伊万里の古から現在の発展に至るまでが八つの章にわたって壮大に歌われている。格調高いこの曲は市民文化祭でも歌われるようで、歌うたびに愛郷心が刻まれることだろう。ギリシャ国歌は最後の158番まで歌うと1時間弱かかるそうだが、伊万里讃歌も40分に及ぶ。

一方で豊かな自然を歌詞とする県歌や市歌を飾る昆虫の代表格はホタルである。東京都福生市の「福生市の歌」、チェリッシュが歌う新潟県魚沼市の爽やかな「魚沼市民の歌『魚沼元気』」、山口県の第二の県歌とも言うべき行進曲調の「みんなのふるさと」、熊本県合志市の「合志市音頭『志合せて』」、大分県佐伯市の「佐伯市歌『美しいのは～佐伯讃歌～』」、鹿児島県伊佐市の「伊佐市歌『伊佐はとってもいいさ』」等がある。万葉の乙女「真間の手見奈」のふるさと千葉県市川市の独特な歌詞を持つ「市川讃歌『透明の芯の芯』」には「縄文の蛭」が出てくる。

県歌や市歌ではないが、埼玉県「彩の国音頭」やさいたま市の「大宮音頭」でもホタルが歌われる。

そのほかの昆虫では大阪府箕面市の愉快な「たきのみち音頭」で「蝶々」と「昆虫館」が、「オオムラサキの里」がある広島県府中市の「夢の来た道」ではムラサキの蝶が、鹿児島県指宿市の「市民歌『希望あらたに』」では市の蝶であるツマベニチョウが彩を添えている。因みに府中市のマンホールの蓋にはオオムラサキがデザインされている。

童謡「赤とんぼ」の作詞者三木露風生誕の地である兵庫県たつの市の「たつの市歌」は勇ましい曲で「城下に響く赤とんぼ」の一節がある。

県歌や市歌はその地を訪れても耳にすることは多くないが、ここに記した曲の多くはインターネットの動画サイトや県や市のホームページで聴くことができるし、CDやDVDが販売されているものもある。このような曲の音源を集めるのも楽しみの一つである。



魚沼市民の歌 魚沼元気  
TEICHIKU RECORDS XS-70247